二〇一九年度　箕面自由学園中学校入学試験問題　国語（一枚目）

番号

1 以下の問いに答えなさい。

(1) 次の各――部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

① 木のミキを傷つける。
② 自分の作品をテンジする。
③ 努力したカテイを評価する。
④ 両親にカンシャの気持ちを表す。
⑤ ボール遊びはキンシされている。
⑥ エンチョウコードを探す。
⑦ キチョウな体験をする。
⑧ 災害にソナえて水を買う。
⑨ 道で財布をヒロう。
⑩ 先生にお金をアズける。
⑪ 類似品が出回る。
⑫ 願い事が成就する。
⑬ 悪の組織をたおす。
⑭ 潔くあやまる。
⑮ 朗らかに笑う。

(2) 次の①～⑤は同じ漢字を用いた四字熟語です。□内にはそれぞれ同じ漢字が入ります。□に当てはまる漢字を、漢字一字で答えなさい。

① □信□疑
② □進□退
③ □知□能
④ □業□得
⑤ □材□所

(3) 次の①～⑤のことわざと反対の意味のことわざを、それぞれ後のア～クから選んで記号で答えなさい。

① 善は急げ
② 果報は寝(ね)てまて
③ かえるの子はかえる
④ 好きこそものの上手なれ
⑤ 二度あることは三度ある

ア 焼石に水　イ 雨降って地固まる　ウ へたの横好き　エ まかぬ種は生えぬ
オ 急がば回れ　カ 猿(さる)も木から落ちる　キ 氏より育ち　ク 柳(やなぎ)の下にいつもどじょうはいない

(4) 次の①～⑤の各組の言葉の中から、他の四つとは性質の異なるものをア～オから一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① ア 遊び　イ 寒い　ウ 楽しみ　エ 思い　オ 喜び
② ア 話し　イ 泳ぐ　ウ 読む　エ 投げる　オ 似る
③ ア 国内　イ 海外　ウ 地方　エ 大阪　オ 都市
④ ア わたし　イ あなた　ウ いもうと　エ あいつ　オ 彼(かれ)
⑤ ア はい　イ まあ　ウ つまり　エ もしもし　オ おい

2　次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

今は学校でも新聞を活用した授業を取り入れていく動きがあります。以前から学校や先生によっては新聞を使った授業を取り入れていたのですが、最近になってそれがきちんと※学習指導要領に組み込まれるようになったのです。

ですから学校の先生たちはみな、新聞を活用した授業をするようになりました。

子どもたちが新聞に興味を持ち、新聞を通してさまざまな力を身につけていけるようサポートする授業が行われるようになったのです。

これはメディア・リテラシーを身につけさせるための取り組みです。メディア・リテラシーとは新聞をはじめとするメディアを読み解く力、読解力です。

たとえば、読解力があまりない場合、①ひとつのメディアが言っていることを全面的に信じてしまい、その情報だけに左右される人間になってしまいます。

でもいくつかのメディアを比較できれば「事実はこうだが、これにたいする意見は3つある」というように、物事を整理してとらえることができます。

メディアが伝える真意をつかむ、あるいは各メディアの立場を理解したうえで、その主張を把握したり、自分なりの判断をする。このようにメディアを読み解く力がメディア・リテラシーなんですね。【　ア　】

メディア・リテラシーを身につけるには、何といっても新聞を中心にして鍛えるのが一番です。②新聞を読まずに、テレビだけで情報を得て、鍛えようと思っても、メディア・リテラシーは身につかないと思います。

たとえばテレビ番組にはコメンテーターと言われる人が出てきて、解説したり、意見を述べたりします。テレビだけ見て、その意見を聞き、「その通りだ」と思ってしまうと見方が偏ってしまうのです。

A　新聞を3紙ぐらい読んでいると、コメンテーターの意見を聞いても「政権寄りの意見だな」「ちょっと独善的すぎる」などと判断できます。

テレビのコメンテーターはそれなりの肩書や実績のある人が出てくるので、ついその人たちの意見が正しいと思ってしまいがちです。【　イ　】

私はテレビを見ていて、「よくもまあ、こんな無責任なことが言えるな」と思うことがしばしばあります。同業だから、よけいにびっくりしてしまうのです。

そもそも事実を受け止めるところから、すでにねじ曲げて、ほぼ※歪曲に近いかたちで話してしまう人さえいます。

ですから情報を判断するとき、テレビのコメンテーターのコメントを聞いただけではまったく③□十分です。かと言って、新聞1紙を読んだだけでも心もとない。

少なくとも2紙ぐらいチェックすれば、意見の共通点や違いが見えてきて、バランスの取れた判断力が身につくのではないでしょうか。【　ウ　】

テレビだけではメディア・リテラシーをつけるのに□十分です。ではインターネットだけでメディア・リテラシーはつくでしょうか。残念ながらインターネットだけでも心もとないと私は思います。

今は④インターネット時代なので、ネットで情報を得るのも、みなさんにとっては当たり前のことでしょう。でも少なくともネットのニュースで関心を持った記事は、紙※媒体でチェックしたり、あるいは紙媒体を見てから、インターネットで関連記事をチェックする癖をつけてください。

そういうふうにネットと紙を往復しながら、情報に厚みを持たせていくやり方が、情報のつかみ方としては正解だと思います。そこにテレビも加えて、ネット、新聞、テレビと三者で回していくのが理想的です。【　エ　】

テレビのニュース番組はしっかり時間をかけてつくっているので、ひじょうにわかりやすいというメリットがあります。新聞を読んで、テレビを見る。あるいは新聞を読んでからテレビを見て、インターネットのニュースも見る。このように三角形で回しますと、かなりのことがわかるようになり、メディア・リテラシーも養われるでしょう。

情報入手という点では本を読む方法もあります。⑤しかしこれは別な文脈の感じがします。私たちは今という社会で空気を吸って生きていますが、本にはたった今の社会のことというよりは、もう少し深いレベルの教養や生き方、まとまった専門的知識について書かれています。

私は新聞と同様に、本もたくさん読んできましたが、その中には専門性が高くすぐには理解できないもの、読解力の要求されるものなど深い知識が要求されるものがたくさんあります。

一方、新聞は、それほど深い知識がなくても、紙面を開きさえすれば誰でもすぐに理解できるように書かれています。みんなが理解できることが書かれているのが、新聞のいいところです。【　オ　】

B　、哲学者の※ハイデッガーやニーチェの思想を本当に理解するのには何十年もかかってしまうでしょう。でも新聞ならそんなことはありません。新聞はふつうの日本人にもわかる平易な言葉で書かれています。これさえ読めば世の中のひと通りのことがわかるようになっています。こんなに便利なものはありません。

メディア・リテラシーを養うには、新聞というメディアは絶対に欠かせない材料だと思います。

（　齋藤孝「新聞力　できる人はこう読んでいる」より）

☆問題作成の都合上、本文を一部変更（へんこう）しています。

※学習指導要領―国が定める小学校や中学校などで何をどのように教えるかの基準。
※歪曲―事実などをわざとゆがめること。
※媒体―情報伝達の仲立ちとなるもの。
※ハイデッガーやニーチェ―ドイツの哲学者。

問一　A　・　B　に入れるのに最も適当なものを、次のア～オの中からそれぞれ選んで記号で答えなさい。

ア　つまり　　イ　だから　　ウ　でも　　エ　なぜなら　　オ　たとえば

問二　この文章には次の文がぬけています。【　ア　】～【　オ　】のどこに入れるのが最も適当ですか。記号で答えなさい。

でも必ずしもそういうわけではないんです。

問三　――線部①「ひとつのメディアが言っていることを全面的に信じてしまい、その情報だけに左右される」とありますが、これと同じことを言っているところを本文中から三十字でぬき出し、その最初と最後の五字をそれぞれ答えなさい（句読点も一字にふくみます）。

問四　――線部②「新聞を読まずに、テレビだけで情報を得て、…身につかないと思います。」とありますが、新聞とテレビについて説明した次の文の（　　）に当てはまる語句を、指定された字数でそれぞれ本文中からぬき出しなさい（句読点も一字にふくみます）。

新聞は深い知識がなくても（ア　十一字　）が書かれているというメリットがある。一方、テレビのニュース番組は（イ　十一字　）というメリットがある。

問五　――線部③「□十分」について、

（1）「十分でない」という意味になるように□に入る適当な漢字を答えなさい。
（2）次の各熟語の頭につく接頭語として適当な漢字を、あとに示す意味もふまえて答えなさい。

ア　経験　【意味】経験をまだしていないということ。
イ　常識　【意味】常識にはずれていること。

問六　――線部④「インターネット時代」とありますが、具体的にどういうことですか。最も適当なものを、次のア～エの中から選んで記号で答えなさい。

ア　インターネットで流れている情報がこの社会のすべてのことを表すということ。
イ　インターネットでニュースを見ないと話の流れについていけないということ。
ウ　インターネットで知ることができるニュースはうそが多いということ。
エ　インターネットで情報を手軽に簡単に得ることができるということ。

問七　――線部⑤「しかしこれは別な文脈の感じがします。」とありますが、具体的にどういうことですか。最も適当なものを、次のア～エの中から選んで記号で答えなさい。

ア　本に載（の）っている情報は一昔前のものばかりであるので、役に立つ情報は少ないということ。
イ　本はさまざまな情報を得ることはできるが今の社会のことを知るには十分でないということ。
ウ　本を読むにはハイデッガーやニーチェなどの思想を知識として知っておく必要があるということ。
エ　本はインターネットやテレビと違（ちが）って動画を見ることができないので今の社会には合わないということ。

問八　「メディア・リテラシー」について、

（1）「メディア・リテラシー」とはどのような力ですか。本文中から十字でぬき出して答えなさい。

（2）「メディア・リテラシー」を養うには具体的にどのような方法が良いと筆者は述べていますか。四十字以内で答えなさい（句読点も一字にふくみます）。

問八（2）　下書き用

3　次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

わたしがその声にひかれた最初の記憶は、三才の時であった。或る昼下がり、突然頭のなかにれんげの花畑が広がった。紫の海のように、れんげの水平線さえ見える。幼いわたしは、どこかでその風景を見たことがあるような気がした。家にはそのときだれもいなかった。【　あ　】静まり返った［　　］三歳のわたしは玄関を出た。

れんげの花が咲いているところ。それもたくさん咲いているところ。心のなかは、れんげの海で光っていた。

四万十川の支流で、後川という川がある。わたしは町外れにある後川の橋を渡り、さらに歩き続けた。すでに家からはかなりの距離であった。この橋は国道でもあり、高知市と中村市を結ぶ幹線道路である。トラックやバスなど、大型自動車もひっきりなしに通った。昔のことであるから、歩道などなかった。三歳のこどもが、よくもひとりで危険な橋を渡ったものである。わたしの心には、紫の花の世界しかなかったのだ。

橋を渡った辺りから、A田円地帯となる。車の※往来が激しいが、右側は後川の土手になっており、草の斜面には春の野花が咲き誇っていた。そして左側は、一面のれんげ畑だった。わたしは満足気に、とことこと歩き続けた。家からすでに、四キロほども遠ざかっている。いったいどれくらい歩いたろう。夕焼けが、れんげの畑をいっそう①濃紫に染め上げていた。わたしはさすがに疲れ、れんげの畑のなかに座り込んだ。辺りはれんげの花の香りで満ちていた。触れ合うれんげ草の茎と茎は、【　い　】気持ちのいい音がした。②小さくあくびをして、今にも眠りそうだった。その時、目の前の国道に一台の黒塗りの車が停まるのが見えた。

運転席には、見たことのある男がいた。母がB感護婦としてC勤めている病院の※おかかえ運転手であった。彼の息子とは、保育園でも仲良しであり、何度か遊びにいったこともあった。病院の車庫の上に六畳一間の部屋があり、そこに家族で住み込んでいた。気さくな運転手で、わたしのことも可愛がってくれていた。

「みっちゃん。※どうしたがぜ。こんなところに座って」

運転手は③驚いた顔で言った。その時わたしがどう返答したのか覚えていない。とにかくそれから車に乗せてもらい、家まで帰った。後ろの座席には、※往診からの帰りなのだろう、きちんと蝶ネクタイをした医者がいた。院長である。わたしは妙に緊張して座っていた。院長先生は狸みたいな顔で、わたしを【　う　】見下げていた。

「食べなさい」

院長はそう言った。彼の白いふっくらした手の中には、夕焼け色の甘露飴が一粒のっていた。

家では私がいなくなったというので、かなりの騒動になっていたらしいのだが、記憶にはない。それどころか、何日もたたないうちに、わたしはまた同じ場所にまでやってきていた。その時は、畑に老婆がいて、野良仕事をしていた気がする。とにかく彼女は、なぜかわたしに五円玉をくれたのだ。これを持って帰れといった。私は素裸直にもらいうけ、帰ったのを覚えている。帰り道、その金で※ニッケ水を駄菓子屋で買った。

あれからわたしは、遠くへ行くのが※習癖のようになってしまった。山の※稜線が青い空とD接する辺りで、誰かがわたしを呼んでいるような気がして④出掛けたこともあった。四万十川の水の流れが、遙か彼方へいざなっているような気がして、川面を見ながら自転車を走らせたこともある。そうして下田の海へ何度行ったことか。波の向こうには、両手で測りきれないほどの水平線がいつもあった。あの海の向こうも気になった。わたしが高校を卒業して、飛び出すように中村の町を出たのも、ひょっとすれば※合法的な⑤家出だったのかもしれない。

今でも、わたしは暇さえあれば歩いている。遠くて旅をする。

（横山充男「帰郷」より）

☆問題作成の都合上、本文を一部変更しています。

※往来―行ったり来たりすること。
※おかかえ―やとわれた。
※どうしたがぜ―どうしたのか。
※往診―医者が病人の家に行って診察すること。
※ニッケ水―ニッキ水。清涼飲料水の一つ。
※習癖―くせ。
※稜線―山のみね。
※合法的―意にかなった。

問一　～～線部A「田円」、～～線部B「感護」の誤字を正しい漢字に直しなさい。解答欄にはそれぞれ漢字二字で答えなさい。

問二　～～線部C「勤めて」、～～線部D「接する」の読みをひらがなで答えなさい。

問三　【　あ　】～【　う　】に当てはまる語として最も適当なものを、次のア～カの中からそれぞれ選んで記号で答えなさい。

ア　きゅきゅと　　イ　じりじりと　　ウ　じろりと
エ　しんと　　オ　きゅんと　　カ　ひやりと

問四　□に当てはまる季節・時間の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～クの中から選んで記号で答えなさい。

ア　春の早朝　　イ　春の午後　　ウ　夏の早朝　　エ　夏の夜
オ　秋の夕暮れ　　カ　秋の夜　　キ　冬の早朝　　ク　冬の晩

問五　――線部①「濃紫に染めあげていた。」とありますが、なぜ「濃紫」になるのですか。その理由を四十字以内で説明しなさい（句読点も一字にふくみます）。

問六　――線部②「小さくあくびをして、今にも眠りそうだった」時の気持ちを、本文中から漢字二字の熟語でぬき出しなさい。

問七　――線部③「驚いた顔」で言ったのはなぜですか。その理由を四十字以内で説明しなさい（句読点も一字にふくみます）。

問八　――線部④「出掛けた」、――線部⑤「家出」とありますが、筆者にとって「家出」とは何ですか。別の言葉で言いかえている語を、本文中から一単語でぬき出しなさい。

問五　下書き用

問七　下書き用

二〇一九年度　箕面自由学園中学校　入学試験　国語　解答用紙

番号

1

(1) ①
(2) ① ② ③ ④ ⑤
(3) ① ② ③ ④ ⑤
(4) ① ② ③ ④ ⑤

⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮

け る
え て
う
く
ら か

2

問一 A
B
問二
問三 最初 最後
問四 ア イ
問五 (1) (2) ア イ
問六
問七
問八 ア イ

3

問一 A
B
C
D
問二
問三 あ い う
問四
問五
問六
問七
問八

め て
す る